

主の栄光と礼拝

レビ記九章

その時、主の栄光が民全体に現れた。主の前から炎が出て、祭壇にある焼き尽くすいけにえと脂肪をなめ尽くした。これを見て、民は喜びの叫びを上げ、ひれ伏した。(23、24)

大祭司に務めに就いたアロンが全ての民のためにいけにえを献げ終わると、主の栄光が現れ、祭壇のいけにえが火で焼き尽くされました。主がそれら全てを受け入れてくださったことを示すものでした。民の罪のための贖いの道が開かれたのです。主は生きておられ、民の求めに応えてくださる方であることが明らかにされました。そのとき、民は喜びの叫びを上げ、主を礼拝しました。礼拝とは、神の栄光を目の当たりにした私たち人間のあいだに起こるごく自然な態度です。聖なるお方の前に立つとき、人は命じられなくても主を礼拝するようになります。日曜日の礼拝において、教会は説教と聖餐を通して主の栄光を現します。私たちの神が確かに生きておられることを指し示すのです。霊の目によって栄光の主を見せていただき、心からの礼拝をささげる者たちでありたいと願います。